

井尻公民館だより

(令和3年10月1日発行)

<令和3年10月号>

(第211号)

<連絡・問い合わせ先> 館長 窪田 道忠
主事 相澤陸奥実

晩夏光母愛の籐の椅子

飯島武志



絵手紙愛好会

武川ふさ子

9月に入り暑さも収まり昼間、あんなにうるさく鳴いた蝉も静まり、今度は夜に虫の大合唱と、変わってきました。

迷走した台風14号が九州から四国方面へ近年では台風の期間が長くなってきているとかで、今月も安心できないな。

いよいよ本格的な秋の季節がやってきました、野には赤とんぼが飛び回りコスモスが快い秋風に揺れ心地よく感じさせてくれます。

スポーツに芸術にいろいろなことに挑戦し気分転換を、とは言えこの新型コロナ禍の中では難しい事があります

9月はコロナ対策が政局に影響し首相退陣となり総裁選挙が有るこの「だより」が配布される時には新たな結果がでてき動きだす、以後、衆院選が行われてます、今後の日本の行く末を我々の一票を生かしましょう。

ワクチン接種も進み感染ピーク過ぎて感染者も減少している様です、安心せず自己管理を行って新たな生活様式を実地して行きましょう。

お知らせ

8月8日から公民館活動も休館しておりましたが、10月から様子を見ながら再開致します、感染対策を遵守しご利用いただけます。

来年2月に生涯学習推進大会で行われる中での「童謡フェスティバル」は**中止**と決定しましたのでご承知願います。



菊の会の活動

夏季が過ぎ菊の胴伸びが、進み鉢植え状態では転倒等の設置不安定も生じます、又 展示会に於ける展示には高さ制限160cmの決まりも有ります。そこで今回は**胴切**し新たな形に仕上げる作業です、各自持参した作品を指導の基で作業を行ないました。

11月文化展に向けての素晴らしい作品になることを願うものです。



昨年の作品の一部です



豆知識

今年も葡萄の収穫の季節がやってきました、人気のシャインマスカットを初め、数多くの種類と生産量とも、山梨は日本一の規模を誇っております、この地域での葡萄の歴史は1300年前からと言われております、時が達、先人の方々の大変の努力に依って現在に至っております。

皆さん、ご存知の方も多いと思いますが「月の雫」(つきのしずく) という山梨独自の和菓子が有ります、これは葡萄の粒を糖衣でくるんだものです。色々調べてみました。

この和菓子の誕生は必然的ではなく偶然にできた菓子です、誕生については2説あり、江戸時代(享保8年)甲府にあった老舗和菓子店で砂糖を煮ていたときに近くににあった葡萄の粒が中に落ちそれが冷えて固まりできあがった、後にこれを甲府藩主の柳沢吉里に献上したところ、「月の雫」の銘をいただいた。

もう1説は、明治10年、甲府にある和菓子店松林軒の三代目が、煮詰めている砂糖の中に偶然落ちた葡萄の粒が冷え固まり、それがまるでぶどう畑に降り注ぐ「月の雫」に見えた。

歴史的には200年以上前に誕生しており山梨県の銘菓として君臨している

これに使われている葡萄は「甲州葡萄」のみ、それは、この葡萄の適度の酸っぱさと砂糖の甘さのバランスが、よい味わいをだしているからです、そして皮がある程度の厚みがあるので型くずれせず日持ちも保たれるからです。

これ造るにほとんど手作業である、粒を溶かした砂糖の中に入れ糖衣するため大量生産は出来ない事にある。

また、生の葡萄を使うために季節限定、9月～12月の短期となっております。

この写真で甲州葡萄と白く丸いのが月の雫です。

200年以上前の食感を味わってみてはいかがでしょうか。



(川柳)

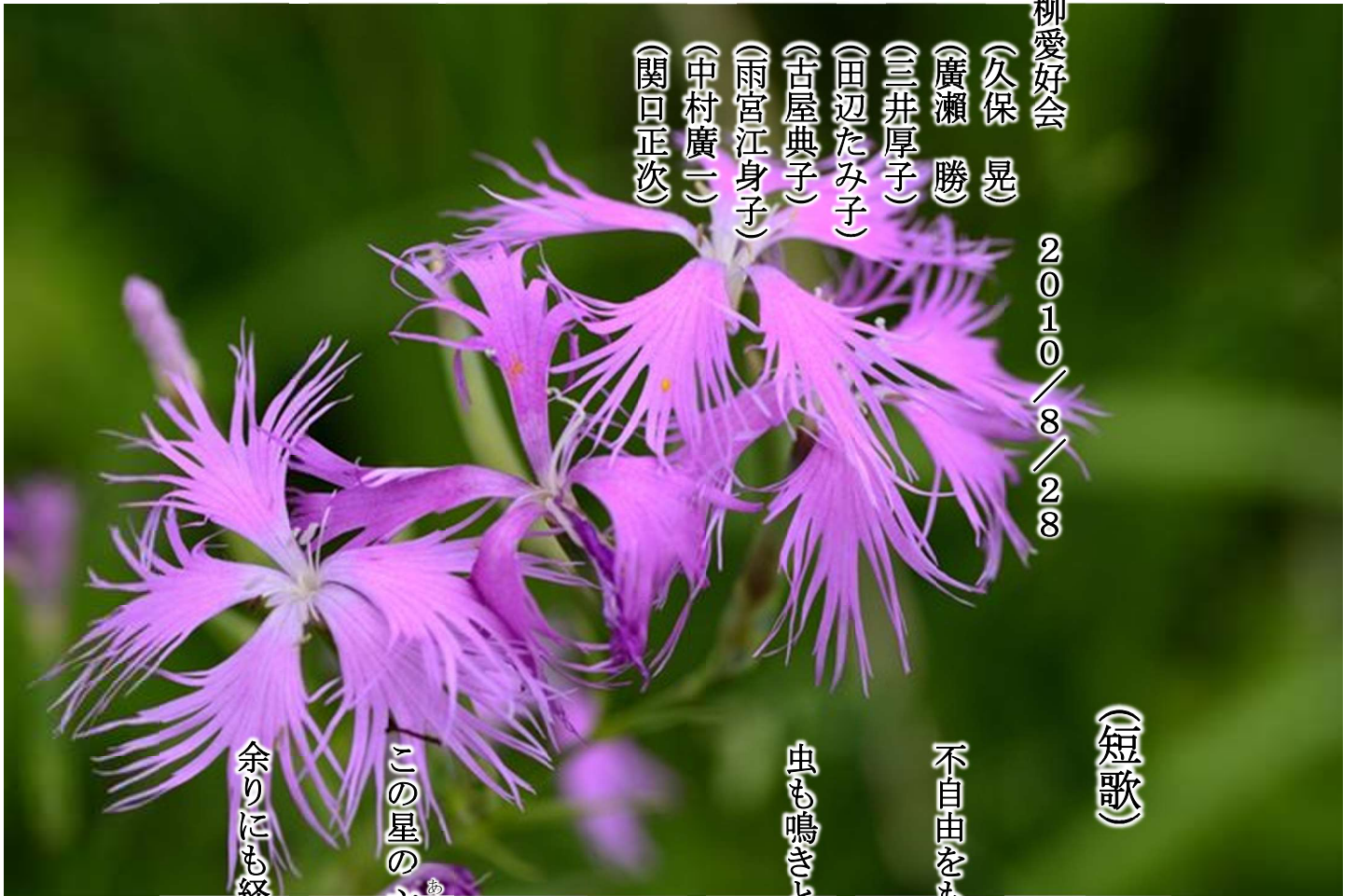
井尻公民館川柳愛好会

2010/8/28

吾に似て風に漂う小切れ雲
亡き母の風の便りは耳よりに
山里の風情に勝るあの娘の瞳
コロナ後は何を目指すか風に問う
風向きを上手くみきわめ出世する
風流に月をみてても出ぬ一句
風向きであちこち変わる風見どり
夢乗せて紙風船よ未知の世界へ

(俳句)

今月も俳句愛好会はお休みさせて
いただきます。



(短歌)

(古屋和子)

不自由をものとせずの選手等の
躍動光るパラリンピック
虫も鳴きとんぼ飛び交いスーパーに
栗が並んでいよいよ秋らし

(久保 晃)

この星の主あるしと称す人類は
自然破壊し反撃をくう
余りにも経済優先自然との
調和怠り今温暖化